

取扱説明書

ご使用のまえによくお読みください。

BEAT

Midship
Amusement



HONDA

このたびはホンダ車をお買い上げいただき、
 ありがとうございます。
 この本は、**BEAT** の取り扱いについて
 必要事項を説明しています。
 安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
 ご使用前に必ずお読みください。



名称	型式	エンジン型式	排気量 (cm ³)	車体形状
ビート	E-PP1	E07A	656	2ドアコンバーチブル

●この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明し、また、装備、万一のときの
 応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

●「安全ドライブのための必読6ポイント」や、



マークのところは重要です。しっかりお読みください。

●運転はルールを守り、マナーよく。

- ・シートベルトを締めましょう。
- ・法定速度を守りましょう。
- ・子供やお年寄りをいたわりましょう。
- ・駐停車は、ルールに従いましょう。
- ・迷惑運転はやめましょう。
- ・自然環境保護に気をくばりましょう。

●安全、快適にご使用いただくために、点検整備は必ず行ってください。

●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

●取扱説明書は別冊の「整備手帳」とともに、いつもお車に保管してください。

●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのために、この本を車につけておいてください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

C O N T E N T S

名称別目次

動作別目次

万一のときの目次

安全ドライブのための必読6ポイント

ソフトトップの開閉

1. 車を運転する前に

2. 車を運転するとき

3. 安全装備

4. ドライブを快適にする装備

5. 万一のとき

6. 車の手入れ

7. 車との上手なつきあいかた

サービスデータ

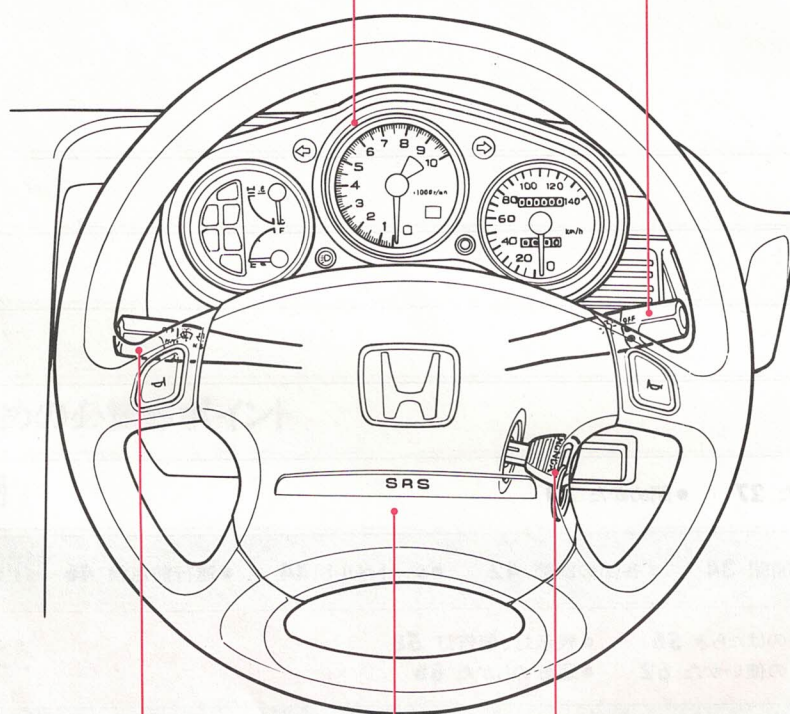
さくいん

	4
	8
	10
	11
●開けた 27 ●閉めた 30	25
●各部の開閉 34 ●各部の調節 42 ●シートベルト 44 ●運行前点検 46	33
●メーターのはたらき 56 ●表示灯、警告灯 58 ●スイッチの使いかた 62 ●運転のしかた 66	55
●SRSエアバッグシステム 70 ●その他の安全装備 72	69
●ヒーター・エアコン 74 ●室内装備品 81	73
●工具・スペアタイヤ・発炎筒 84 ●故障したとき 86 ●バンクしたとき 89 ●バッテリーあがりのとき 95 ●オーバーヒートしたとき 95 ●ライト類が点灯しないとき 96	83
●6か月点検 102 ●簡単な整備 110	101
●純正部品 124 ●車にあった部品の使用 124 ●経済走行のために 125 ●積雪・寒冷時の取り扱い 125	123
	130
	133

名称別目次

ライト/方向指示器スイッチ **63、64**

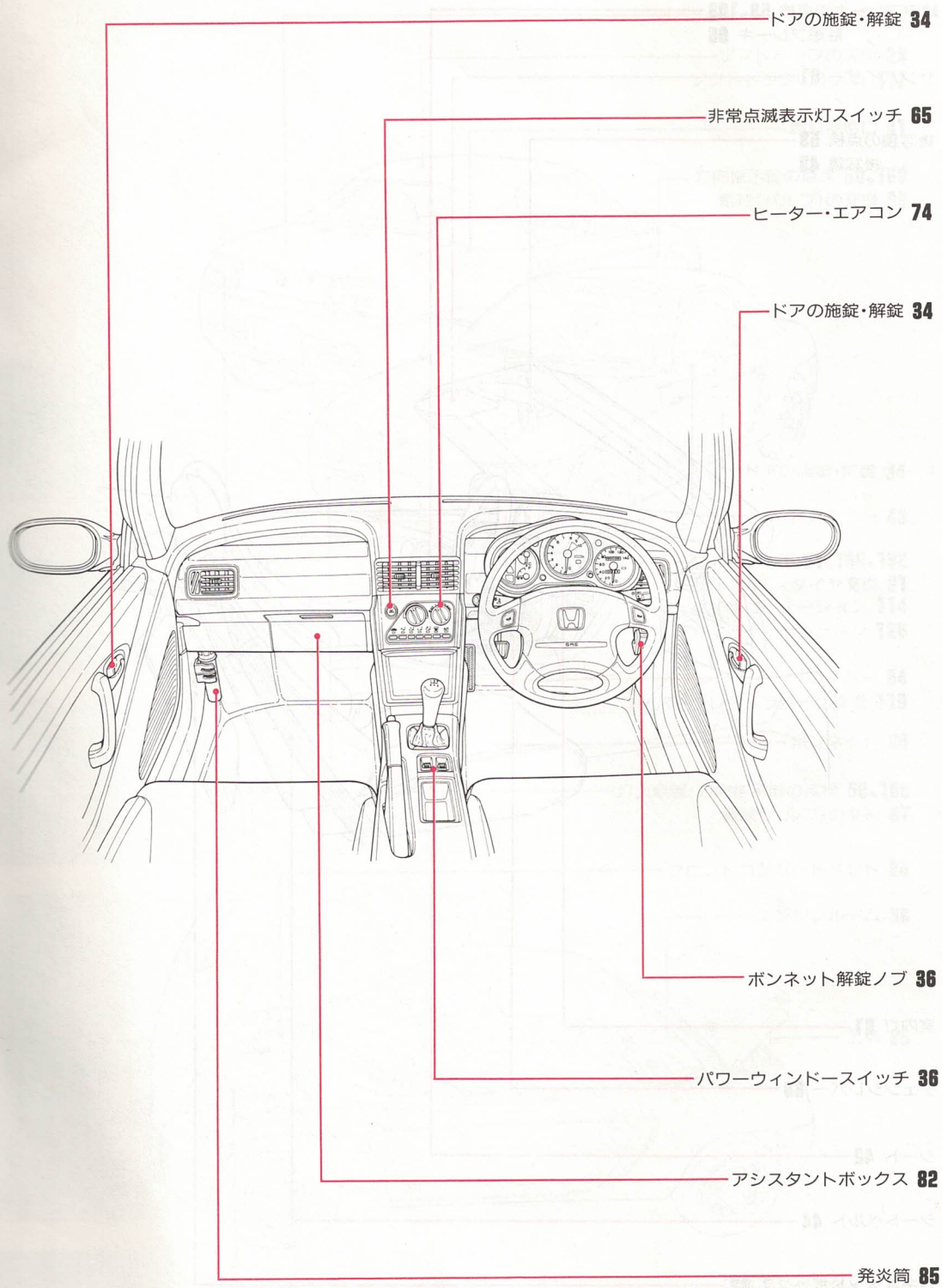
計器類 **56**



ワイパー/ウォッシャースイッチ **64**

SRSエアバッグシステム **エアバッグ装備車 70**

エンジンスイッチ **62**

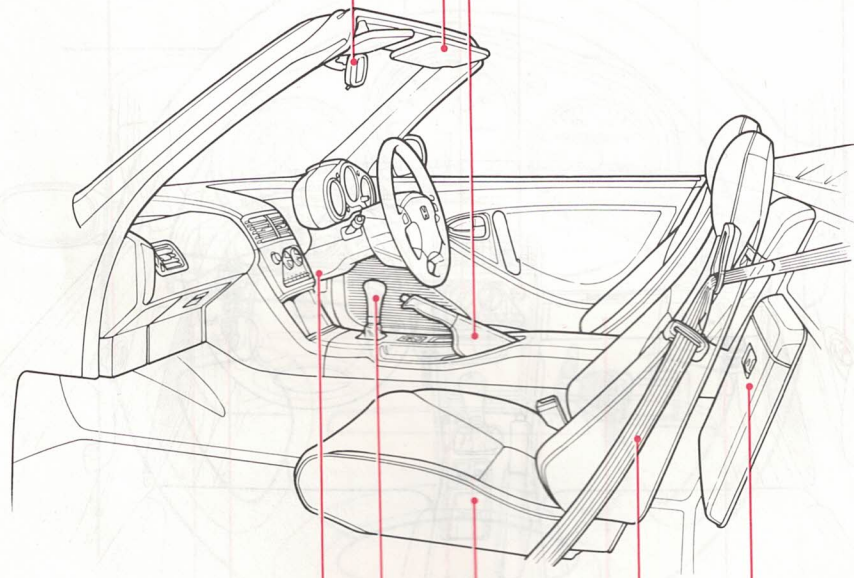


名称別目次

駐車ブレーキの点検 **53、103**
駐車ブレーキ **66**

サンバイザー **81**

後写鏡の点検 **53**
後写鏡 **43**



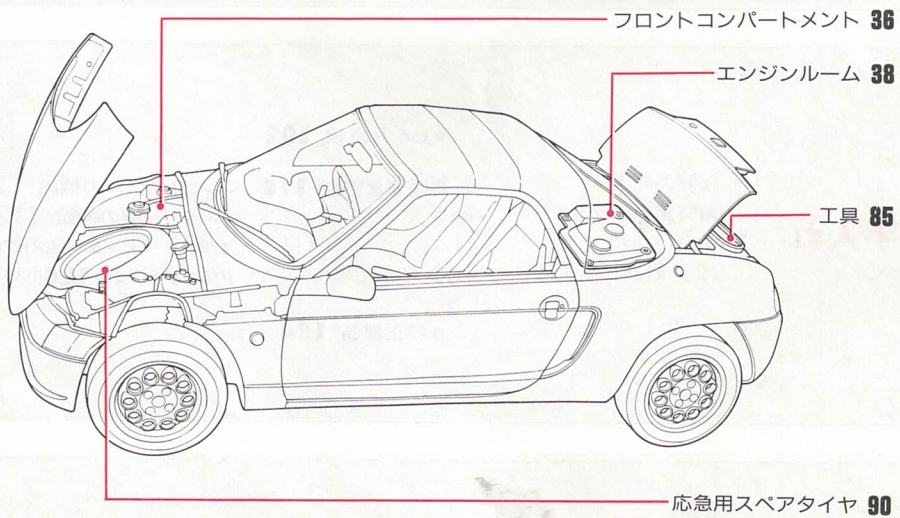
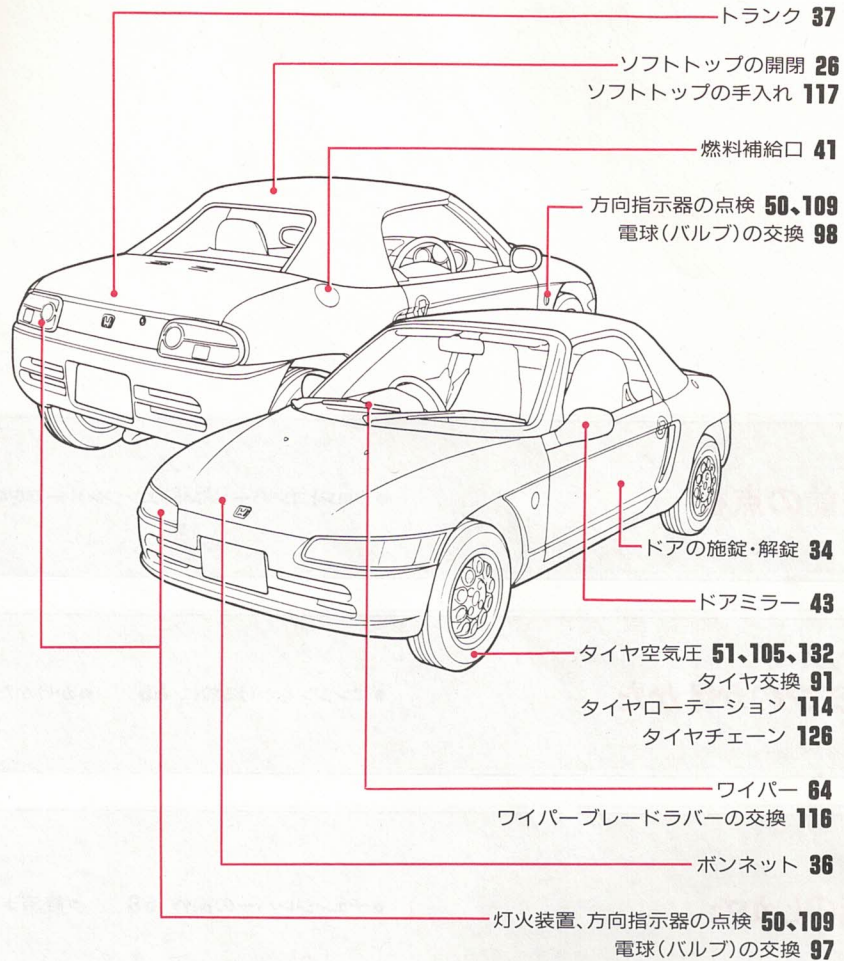
室内灯 **81**

チェンジレバー **68**

シート **42**

シートベルト **44**

ドキュメントボックス **82**



運転前の点検

- フロントコンパートメント、エンジンルームをのぞいて 47

エンジンのかけかた

- エンジンをかける前に 66 ●かけかた 67

運転のしかた

- チェンジレバーの操作 68 ●経済走行 125

車の手入れ

- 6か月点検 102
- 簡単な整備 110 エンジンオイルの補給 110
バッテリー液の補給 113
エアクリーナーエレメントの交換 115
内装の手入れ 120
- 純正部品 124

積雪・寒冷時の取り扱い

- 走行前の点検 125 ●タイヤチェーンの取り付けかた 126

動作別目次

- 車のまわりを回りながら 50
- 運転席にすわって 53

- | | | |
|--------------------|----------------|--------------|
| 冷却水の補給 111 | ウォッシャー液の補給 112 | ブレーキ液の補給 112 |
| バッテリー端子部の清掃 113 | クラッチ液の補給 114 | タイヤの位置交換 114 |
| ワイパーブレードラバーの交換 116 | ソフトトップの手入れ 117 | 塗装の手入れ 118 |
| アルミホイールの取り扱い 120 | エアコンの手入れ 121 | 冬期の整備 122 |

- 車の積雪、凍結について 126
- 走りかた 127
- 駐車のかた 128
- 格納のかた 128

	工具が必要なとき	84
	故障したとき	86
	<ul style="list-style-type: none"> ● 発炎筒について ● 踏切で動けなくなったとき ● 高速道路で故障したとき ● 故障の修理について ● けん引について 	86 86 87 87 87
	パンクしたとき	89
	バッテリーあがりのとき	95
	オーバーヒートしたとき	95
	ライト類がつかないとき	96
	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒューズ交換のしかた ● 電球(バルブ)交換のしかた 	96 97
	警告灯がついたとき	58
	エンジンがかからないとき	87
	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しいエンジンのかけかた ● ガソリンは ● バッテリーあがり 	87 54 95
	タイヤチェーンをつけるとき	126

* 全国のホンダ販売店およびJAFの電話番号は別冊の「整備手帳」に記載してあります。

POINTS

6

安全ドライブのための必読6ポイント

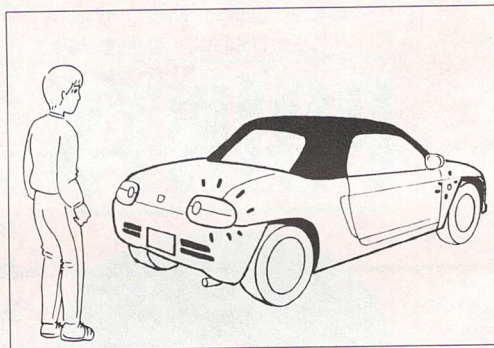
ご使用の前に特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことをまとめてあります。

お出かけまえに	12
お子さまに思いやりを	15
正しい知識で最適運転	16
駐車や停車はしっかりと	19
ソフトトップの注意ポイント	21
こんなことにも注意をしよう	23

お出かけまえに…

お出かけまえには点検を。 (46ページ参照)

- 安全・快適にお使いいただくために、ホンダの点検要領に従って必ず点検しましょう。
- 普段と違う点に気付いたら、ホンダプリモ店で、早めに点検を受けましょう。(音、におい、水・油もれ…)



- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚を感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
〈44ページ参照〉

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも着用させましょう。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



- ベルトにねじれがないか確かめてください。



- ベルトが、くび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



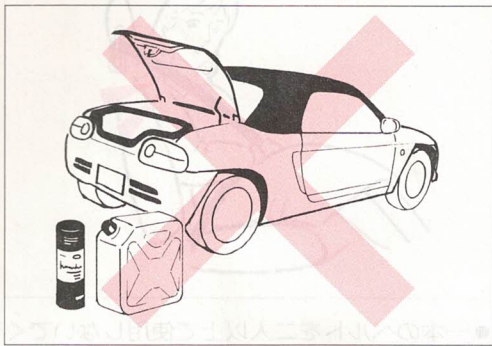
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



安全ドライブのための必読6ポイント

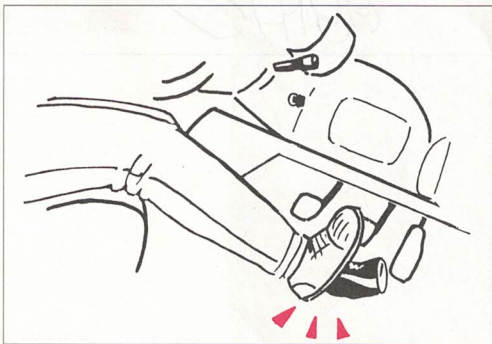
燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

- 万一の場合、引火、爆発のおそれがあります。



運転のさまたげになるものには注意を。

- 運転者の足もとに、物を置かないでください。
- フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。
- ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。



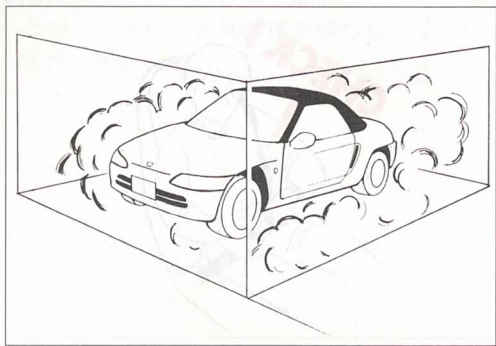
- 手荷物をシートのうしろに積まないでください。

- 後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときに荷物が飛び出すおそれがあります。



車庫や屋内では、エンジンをかけたままにしないで。

- 換気の悪いところでは、一酸化炭素中毒の危険があります。



正しい知識で最適運転

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

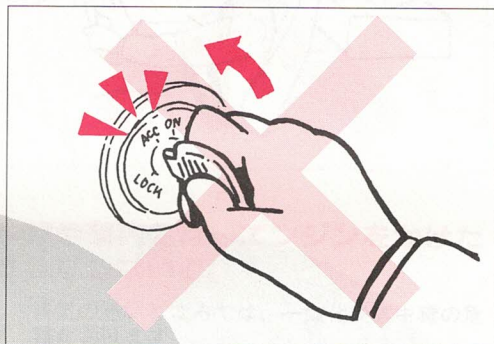
※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

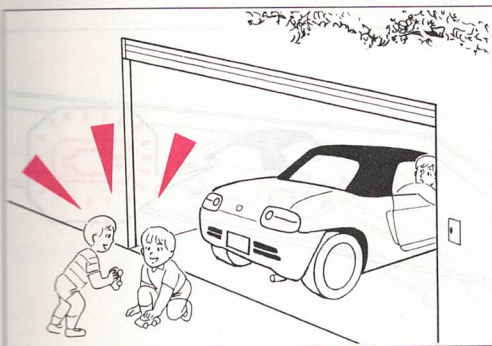
※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

※本誌に掲載されている内容は、あくまで参考情報として提供いたします。最新の情報は、必ず最新の取扱説明書や法令を参照してください。

- 走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。
- ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。
- 走行中はエンジンを止めないでください。
- ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
- エンジンスイッチを“LOCK”にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。

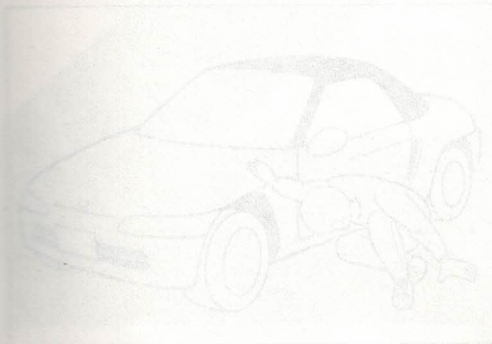


- 車をバックさせるときには、子供や障害物に十分注意してください。
- バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



長い下り坂では*エンジブレーキを。

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。
- 長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジブレーキを併用してください。
- *エンジブレーキとは、走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力で、低速ギヤほどよくききます。



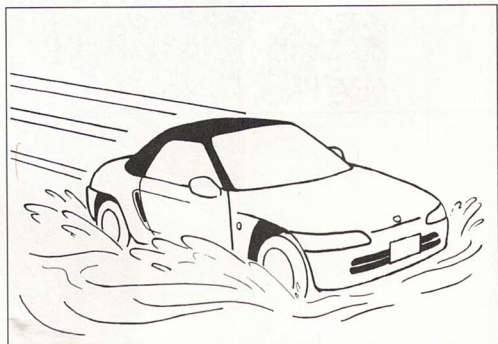
雨天時の走行には注意を。

- 雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため通常より注意深い運転が必要です。また、わだちなどの水のたまりやすい場所では、*ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので注意してください。このようなところを運転するときは、急加速・急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。特に、摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象を起こしやすいので十分注意してください。

*ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

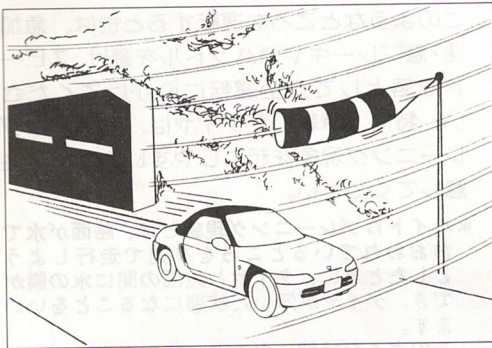
水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

- 水たまり走行後や洗車後は、ブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰返しブレーキペダルを踏んでください。



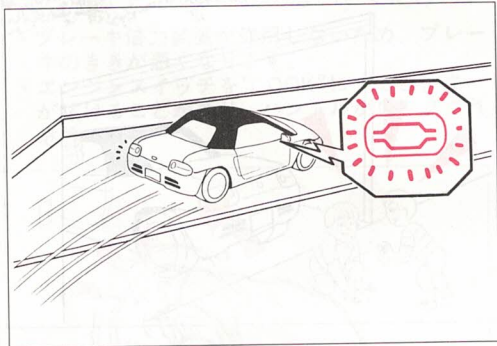
横風の強い日は。

- 横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。
- トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通しなどでは、特に横風が発生しやすいので十分注意してください。

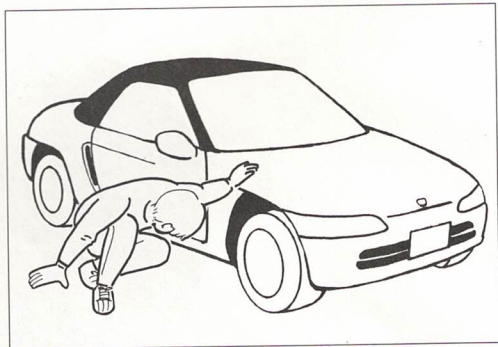


走行中異常があったら。

- 警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。
(58ページ参照)



- 走行中タイヤがパンクやバースト(破裂)してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 急ブレーキは、ハンドルをとられることがあります。危険です。
- 床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。



駐車や停車はしっかりと

注意ポイント

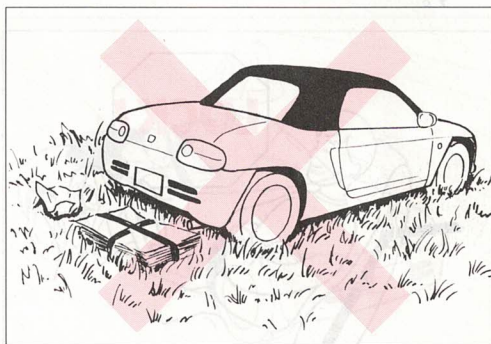
駐車の際は、お車の周囲の状況を確認し、安全な場所に駐車してください。

可燃物には注意を。

平素からお車の周囲に、枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあると、お車の排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

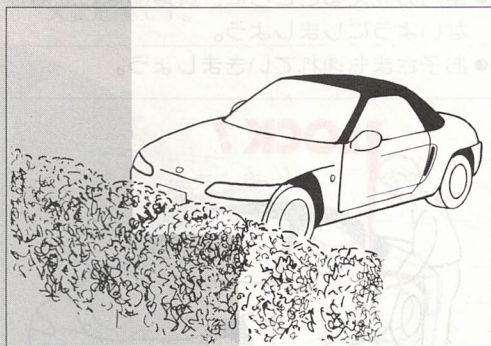
可燃物には注意を。

- 枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。
- 排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



植込みなどにも注意して。

- 植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。



安全ドライブのための必読6ポイント

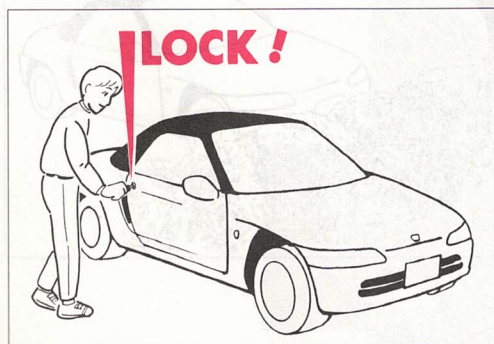
仮眠するときはエンジンを止める。

- エンジンを必ず止め、ソフトトップを閉めてください。
- 無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりした場合危険です。



車から離れるときには施錠を。

- 必ずエンジンを止めて、ドアを施錠してください。
- 車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- お子さまも連れていきましょう。



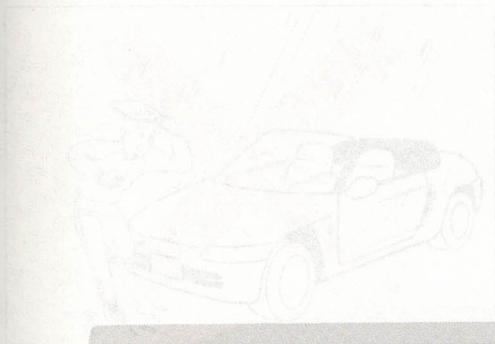
車の移動はエンジンをかけて。

- 車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。
- 下り坂を利用した移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

坂道での駐車は。

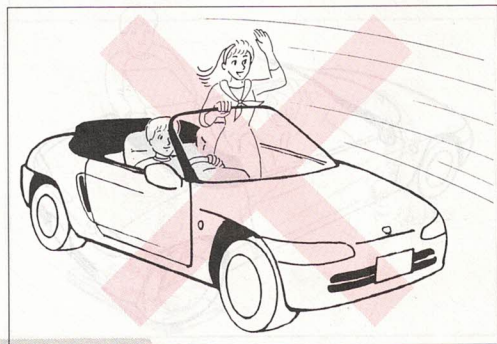
- 駐車ブレーキをかけ、チェンジレバーを平地や下り坂では R に、上り坂では 1 に入れてください。
- さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

ソフトトップの 注意ポイント



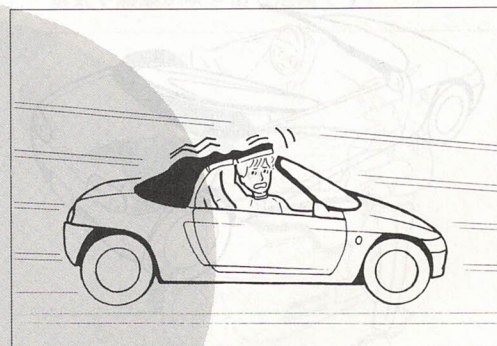
走行中は立ち上がらない。

- 走行中は絶対に立ち上がらないください。特にお子さまなどには十分注意してください。
- 転落など思わぬ事故のおそれがあります。



走行中は開閉操作をしない。

- ソフトトップの開閉は、必ず停車して行ってください。
- 走行中に操作すると風にあおられるなどして大変危険です。



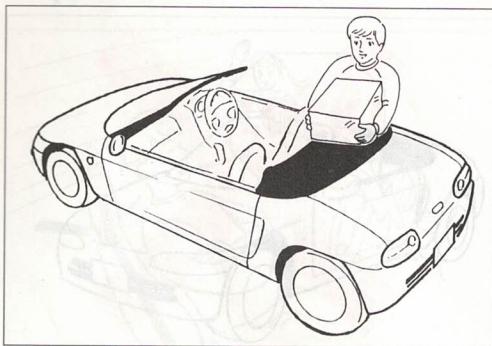
風に注意。

- ソフトトップを開けて走行するときは、室内に物を置かないください。
- 風で飛ばされるおそれがあります。

安全ドライブのための必読6ポイント

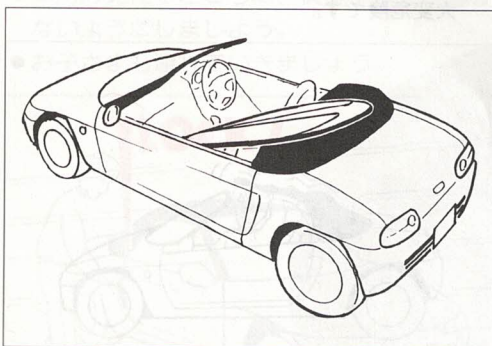
ソフトトップの上にはすわらない。

- 収納したソフトトップの上には、物を置いたり、すわったりしないでください。
- ソフトトップフレームの変形や転落の危険があります。



長い物を載せない。

- ソフトトップを開けた状態で長い物を載せないでください。
- 思わぬ事故を招くおそれがあります。



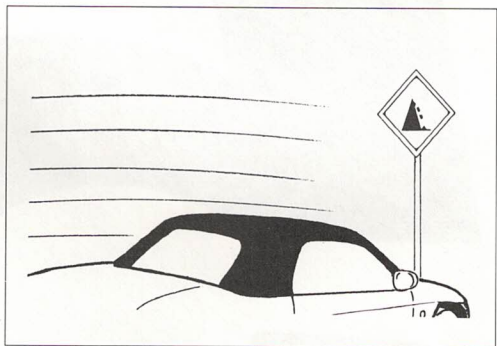
車を離れるときは。

- ソフトトップを確実に閉め、ドアを施錠してください。
- 盗難やいたずら防止、急な雨降りなどにより室内を濡らさないために、必ずお守りください。



落石に注意。

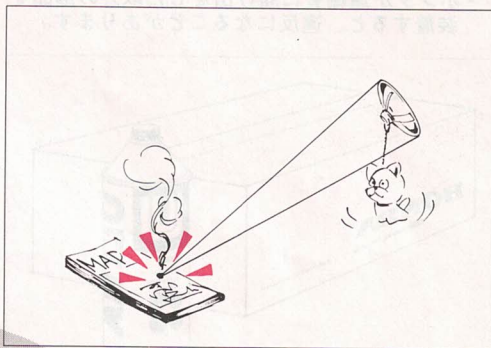
- 山間路など落石のおそれのある場所を走行するときは、特に注意しましょう。



こんなことにも 注意をしよう

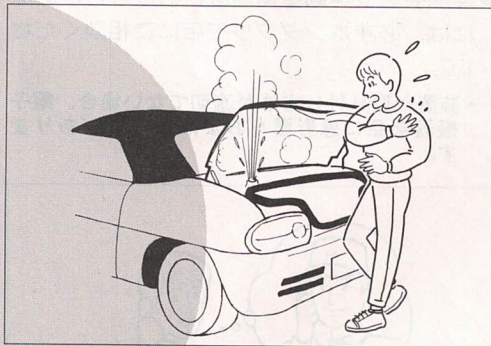
アクセサリーの取り付けには注意を。

- ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- 運転をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



エキスパンションタンクキャップ (冷却水用)に気をつけて。

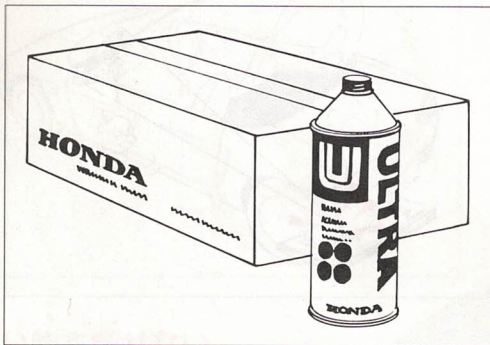
- エキスパンションタンクキャップが熱いときは、外さないでください。
- 蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



安全ドライブのための必読6ポイント

改造はしない。

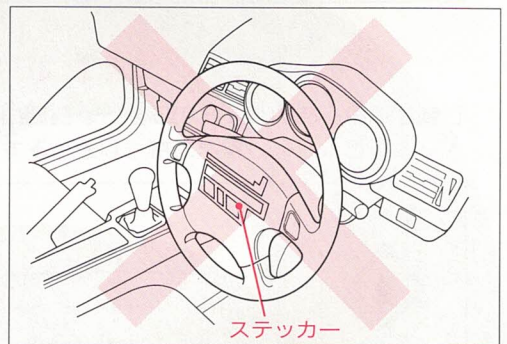
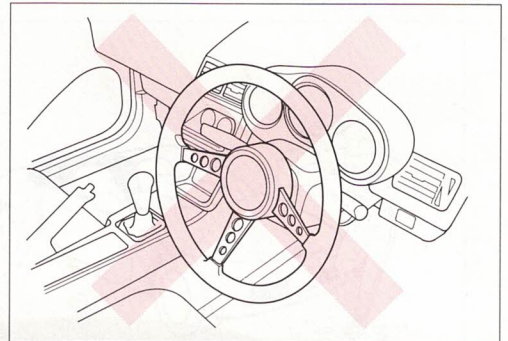
- ホンダ純正部品以外の、車の性能や機能に
適さない部品を、装着しないでください。
- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わ
ぬ事故のもとになったりすることがありま
す。
- ホンダが運輸省に届け出をした以外の部品を
装着すると、違反になることがあります。



- ホイールは、BEAT専用部品をご使用くだ
さい。
- 専用部品以外の部品を使うと、走行に悪影響を
およぼすおそれがあります。
ホンダプリモ店にご相談ください。
- 無線装置や自動車電話などの取り付けの際
には、必ずホンダプリモ店にご相談くださ
い。
- 装置や取り付け方法が適切でない場合、電子
機器部品に悪影響をおよぼすことがありま
す。



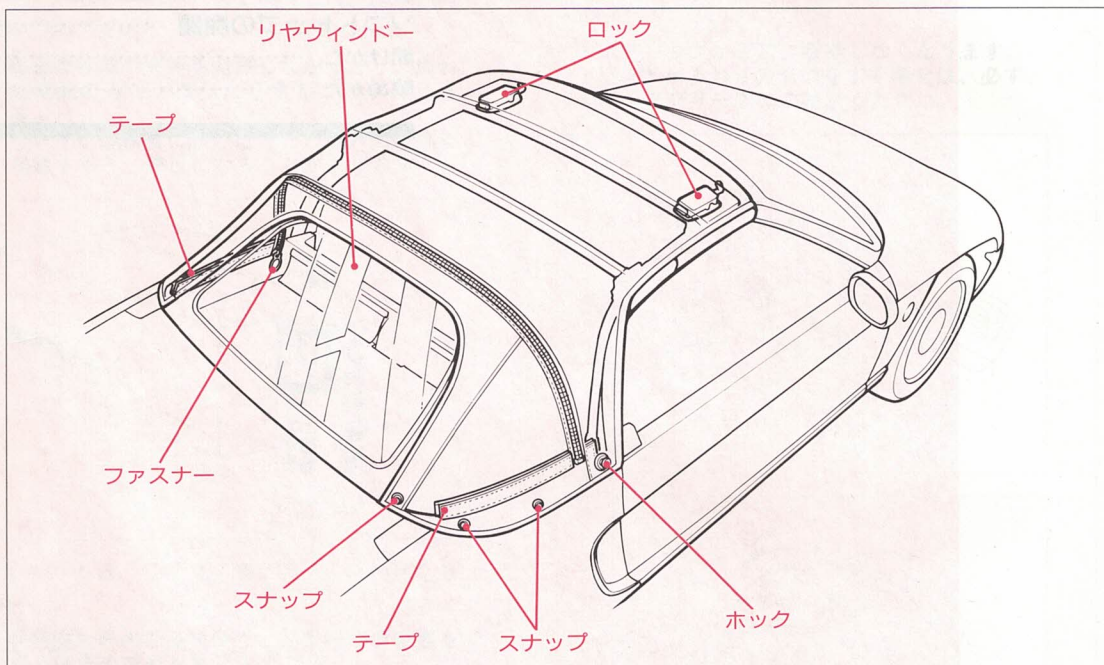
- ハンドルを交換したり、パッドにステッ
カー類を貼ったり、カバーをつけたりしな
いでください。
- エアバッグが正常に機能しなくなります。
- ハンドルまわりの修理をする場合は、必ず、
ホンダプリモ店にご相談ください。



ソフトトップの開閉

ソフトトップの開閉	26
開けかた	27
閉めかた	30

ソフトトップの開閉



安全運転のための必読のポイント

ソフトトップの開閉



ソフトトップ開閉時のアドバイス

- ソフトトップを開閉するときは平坦で安全な場所を選び、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを確実にかけてから行ってください。
- ソフトトップを開閉するときは、助手席の人も必ず降りてください。ソフトトップフレームが身体に当たるおそれがあり、危険です。
- ソフトトップの開閉操作をするときは、ソフトトップフレームの間に手、指などをはさまないように注意してください。
- 風の強いときには、ソフトトップの開閉操作には十分注意してください。風にあおられる場合があります。
- 外気温が低いとき(約5℃以下)には、ソフトトップの開閉操作はしないでください。ソフトトップクロスを痛めます。
- ソフトトップを開けるときは、リヤトレイ上の物を取り除いてください。

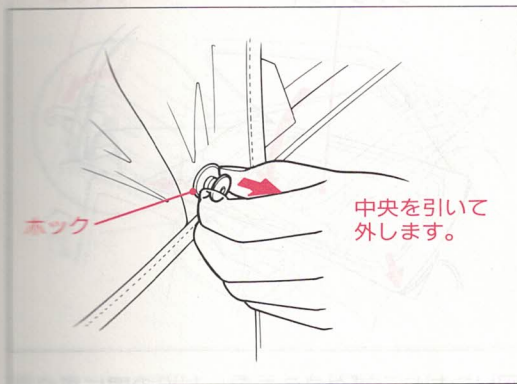


ソフトトップ収納時のアドバイス

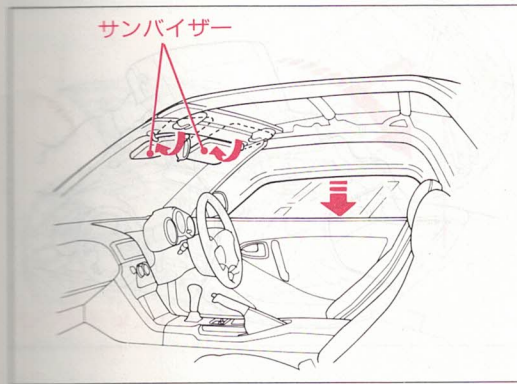
- ソフトトップを開けたときは確実に収納し、ソフトトップカバーを取り付けてください。
- ソフトトップを収納するときは、ソフトトップやリヤウィンドーの汚れ(砂粒、異物など)を取り除いてください。汚れているとソフトトップクロスを痛めたり、リヤウィンドーを傷つけたりする場合があります。
- ソフトトップが濡れているときは、必ず水気を拭きとって乾燥させてから収納してください。濡れたまま収納すると、室内への水の侵入、ソフトトップクロスの劣化、縮みやカビなどの原因となります。

開けかた

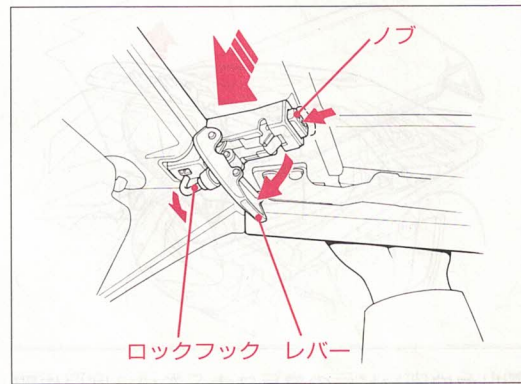
①左右各1か所のホックを外します。



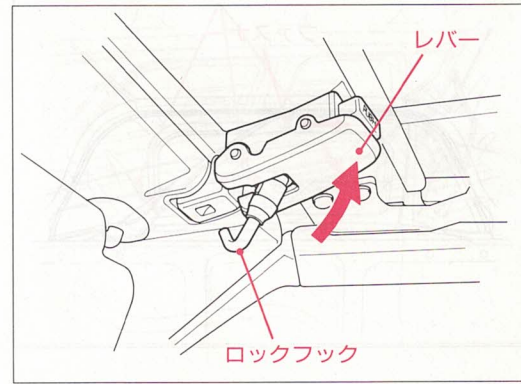
②左右のサンバイザーをおろし、左右のウィンドーをいっばいに下げます。



③ソフトトップ前端部を押さえ、ノブを押しながらレバーを下げ、ロックフックを左右とも外します。

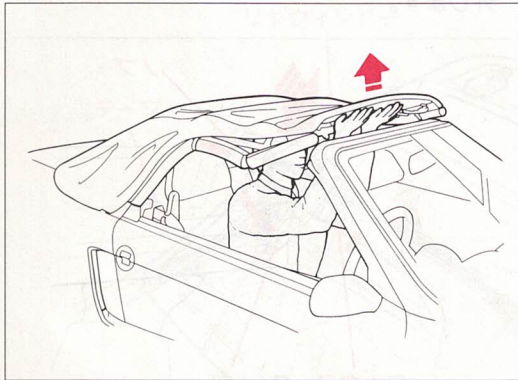


④ロックフックを外したら、レバーを元に戻します。

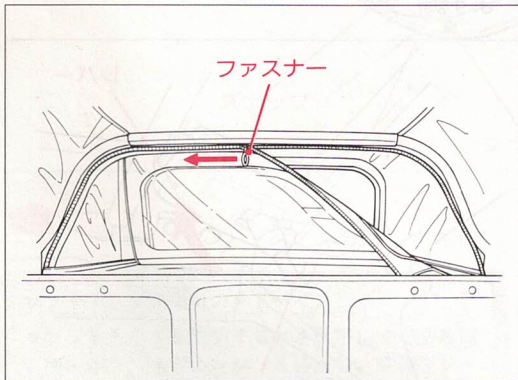


ソフトトップの開閉

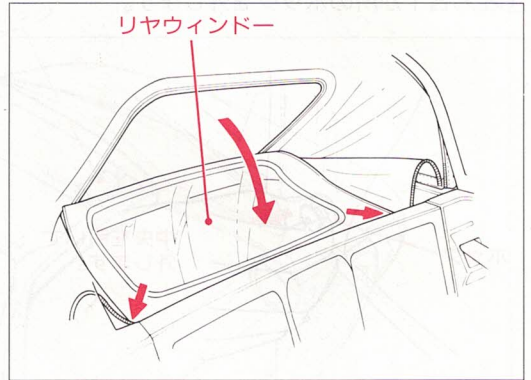
⑤室内からソフトトップの先端を押し上げて少し開け、たるみを持たせます。



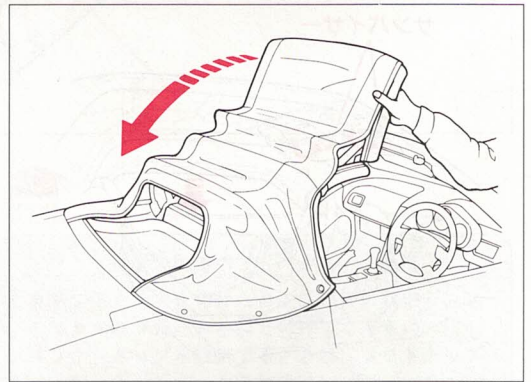
⑥リヤウィンドーのファスナーをいっぱいに開けます。



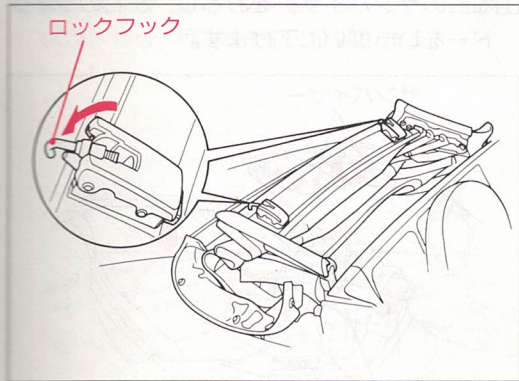
⑦リヤウィンドーを、しわのないようにリヤトレイの上に置きます。



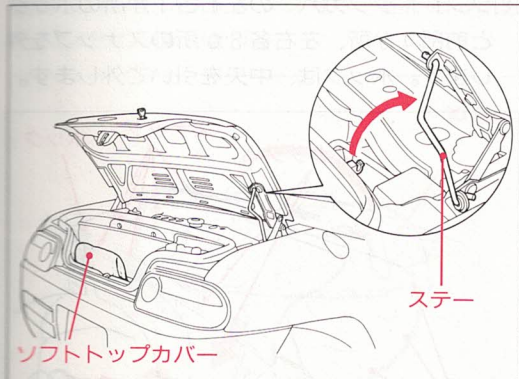
⑧ソフトトップクロスをフレームの間に折り込むようにしながら、ソフトトップをゆっくりと折りたたみます。



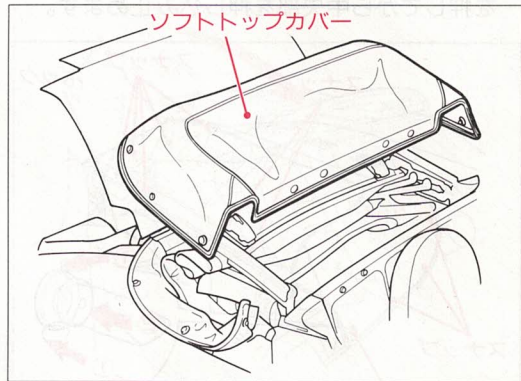
⑨左右のロックフックが起きているときには、倒します。



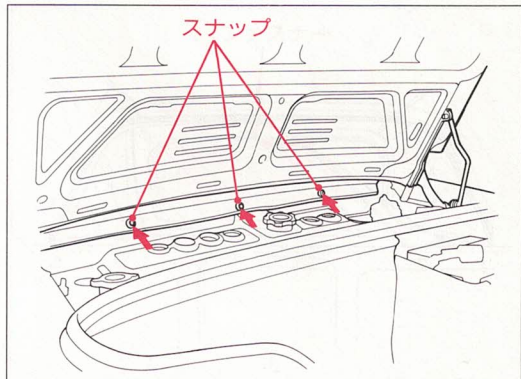
⑩トランクを開け、ステーを確実にかけ、ソフトトップカバーを取り出します。



⑪ソフトトップカバーをソフトトップの上にかぶせます。

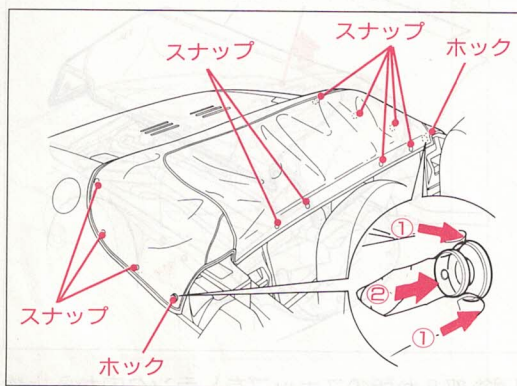


⑫後部3か所のスナップをトランク内から止め、トランクを閉めます。



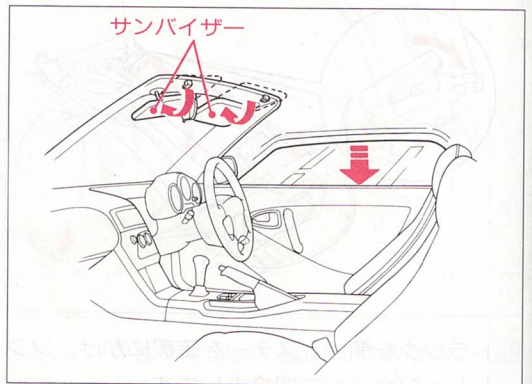
ソフトトップの開閉

- ③左右各1か所のホックと前部4か所、左右各3か所のスナップを止めます。ホックは周囲を押してから中央部を押し込み止めます。

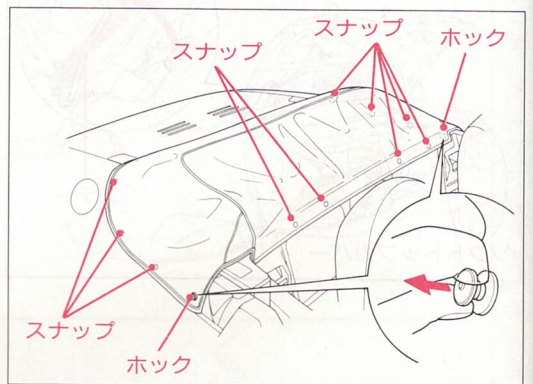


閉めかた

- ①左右のサンバイザーをおろし、左右のウィンドーをいっぱいに下げます。



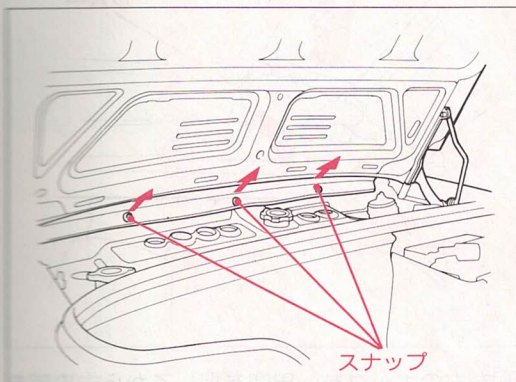
- ②ソフトトップカバーの左右各1か所のホックと前部4か所、左右各3か所のスナップを外します。ホックは、中央を引いて外します。



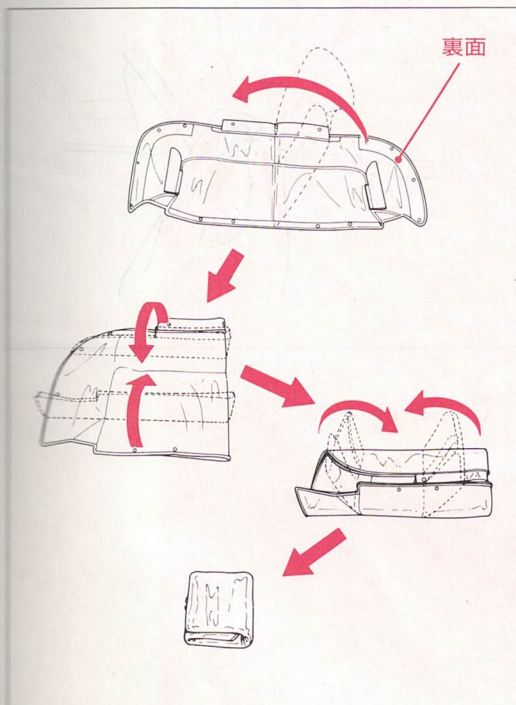
■開けかた

■開けかた ■閉めかた

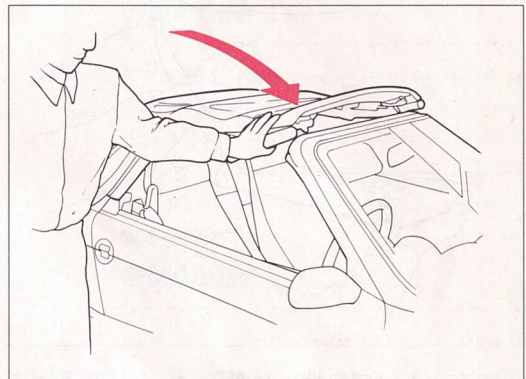
- ③トランクを開け、ステーを確実にかけます。
 トランクの開けかた →37ページ
 ④後部3か所のスナップをトランク内から外し、
 ソフトトップカバーを取り外します。



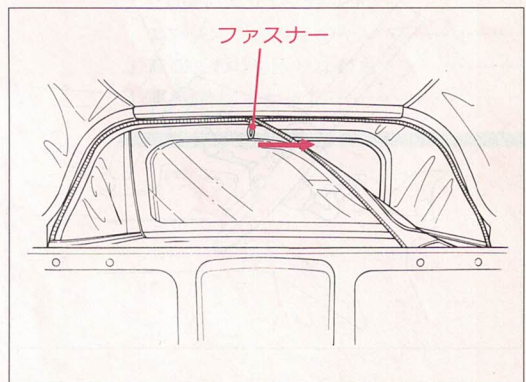
- ⑤取り外したソフトトップカバーをたたみ、ト
 ランクにしめます。



- ⑥トランクを閉め、少したるみが残る程度まで
 ソフトトップをゆっくり引き上げます。

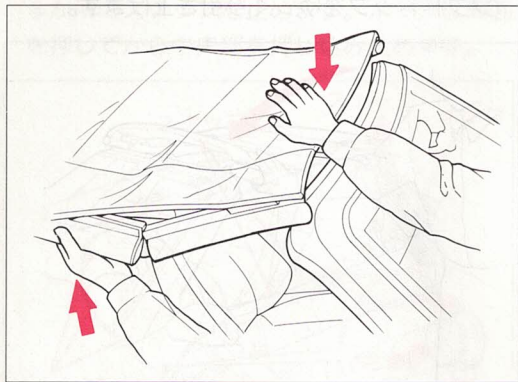


- ⑦リヤウィンドーを持ち上げながら、ファスナ
 ーを閉めます。

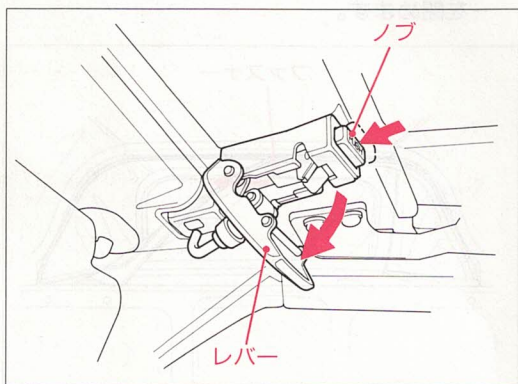


ソフトトップの開閉

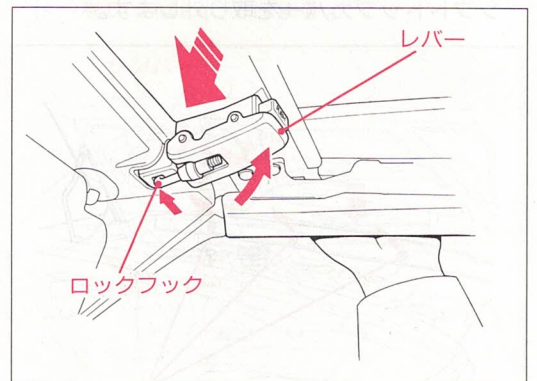
⑧ソフトトップをいっばいに張ります。



⑨左右ともノブを押しながら、レバーを下げます。



⑩ソフトトップ前端を押さえながらロックフックをかけ、レバーを“カチッ”と音がするまで押し込んで左右とも固定します。



⑪左右のホックを、周囲を押してから中央部を押し込み止めます。

